

社会学演習Ⅳ

科目ナンバリング SEM-402
必修 2単位

中谷 直司

1. 授業の概要(ねらい)

本ゼミは、国際関係論と政治学の枠組を用いて、国際社会と日本の関係を考察することを大きな共通テーマとします。前期に新書の読解・プレゼン・ディスカッションを通じて習得した知識と考え方を踏まえて、後期では、まずもう少し専門的な教科書を使い、国際関係研究・政治学研究についての理解と知見を深めます。その上で、専門の学術誌に掲載された論文の読解とプレゼンに、学生同士の協働と教員の手助けの下で、挑戦します(必ず読めるようになります!)

【教科書について】

政治学の方法論には大きく二つあります。一つは理論的アプローチで、前期から使用する『政治学の第一歩』がそうした方法論にもとづいた教科書の代表例です。もう一つは歴史学的方法論で、後期にはまずその特徴を理解するために『国際関係史の方法』の一部を輪読します(近刊予定のため、第一回目の授業に持参は不要)。その上で、それぞれのアプローチでかかれた学術論文を一篇、いくつかのグループに分かれて読解し、その「新奇性」を説明するプレゼンテーションを作成し、内容について議論します。

2. 授業の到達目標

あなたが実際に読んだ論文が扱っているテーマを中心に――

- (1) 国際関係論／政治学の基本的な「ものの見方」を理解する。
- (2) 国際関係論／政治学の成果(新たな知見)について、説明できるようになる。
- (3) 国際政治学・日本外交分析の課題(まだ明らかにできていないこと)を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

【個人得点】

- ① グループワークへの貢献度(司会、書記、タイムキーパー、あるいはプレゼンでの活躍など)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ② 研究ノートの提出回数／内容(クオリティ)／『国際関係史の方法』の発表担当
- ③ 計3回のプレゼン報告会で質問した数

【グループ得点】

- ① プレゼンテーションの完成度(論理性・わかりやすさ、独創性; 時間管理)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ② プレゼン報告会で質問された数

4. 教科書・参考文献

教科書

マーク・トラクテンバーク 『国際関係史の方法』(近刊予定) ミネルヴァ書房

参考文献

砂原庸介、稗田健志、多湖淳 『政治学の第一歩』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

小川浩之、板橋拓己、青野利彦 『国際政治史――主権国家体系のあゆみ』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

5. 準備学修の内容

- ・第5回の前に、それぞれ課題文献に目を通し、分からない言葉や重要と思われる箇所をチェックしてくる。
- ・授業時間内の準備作業のほかに、授業時間外での自習・グループワークも一部必要である。

6. その他履修上の注意事項

【取り組み方】

- ・演習であるので、毎回の授業への出席は必須。
- ・ただし座っているだけでは出席と認めないので、毎回必ず1度は発言する(練習と思う)。

【受講要件】

- ・未知のものへの熱意、好奇心。
- ・試行錯誤・遠回りを楽しむ気持ち。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 【第1回】 | 自己紹介／演習の進め方と目的の説明／学術論文リストの配付とグループ分け |
| 【第2回】 | 『国際関係史の方法』の輪読1――第2・3章を中心に |
| 【第3回】 | 『国際関係史の方法』の輪読2――第4・5章を中心に |
| 【第4回】 | 『国際関係史の方法』の輪読3――第6・7章を中心に |
| 【第5回】 | 論文を読んでみる1――その論文のテーマは何か／キーワードは何か |
| 【第6回】 | 論文を読んでみる2――何が新しいのか1――教科書・参考書を見定める |
| 【第7回】 | 論文を読んでみる3――何が新しいのか2――先行研究にあたってみる |
| 【第8回】 | 中間報告(各グループ7分、担当者が机を回る) |
| 【第9回】 | 最終報告を準備する |
| 【第10回】 | 第1回予行演習 |
| 【第11回】 | 第2回予行演習 |
| 【第12回】 | 第3回予行演習 |
| 【第13回】 | 第1回プレゼンテーション |
| 【第14回】 | 第2回プレゼンテーション |
| 【第15回】 | 第3回プレゼンテーション |